

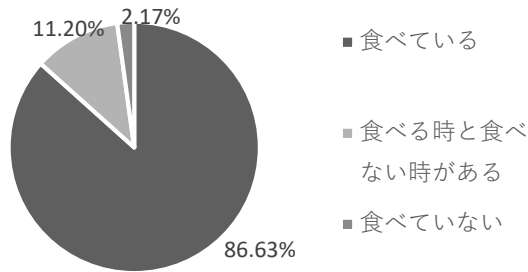
児童生徒の生活状況等に関するアンケート集計結果(5月7日(木)9時時点)

【調査対象】小学校 4,180人 中学校2,040人 計6,220人(4月9日現在)

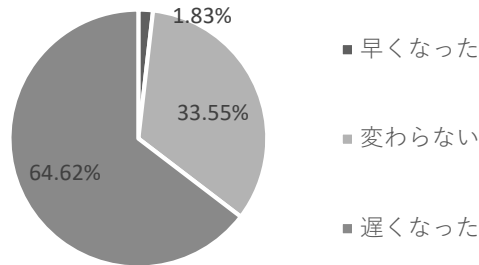
(単位:件)

	回答 件数	【問1】朝食を毎日食べて いますか。			【問2】学校が休みになる 前と比べ朝起きる時刻 はどうになりましたか。			【問3】学校が休みになる 前と比べ夜寝る時刻は どうになりましたか。			【問4】毎日勉強していま すか。			【問5】毎日運動していま すか。			【問6】学校が休みになっ てイライラすることが増え ましたか。		
		食べて いる	食べる 時と食 べない 時がある	食べて いない	早く なった	変わら ない	遅く なった	早く なった	変わら ない	遅く なった	してい る	時々し ている	してい ない	してい る	時々し ている	してい ない	増えた	変わら ない	減った
小学校	2,781	2,574	184	23	54	1,140	1,587	55	1,503	1,223	2,031	627	123	1,510	1,075	196	770	1,930	81
	割合	92.56%	6.62%	0.83%	1.94%	40.99%	57.07%	1.98%	54.05%	43.98%	73.03%	22.55%	4.42%	54.30%	38.66%	7.05%	27.69%	69.40%	2.91%
中学校	1,541	1,170	300	71	25	310	1,206	30	647	864	1,006	442	93	605	643	293	321	1,127	93
	割合	75.92%	19.47%	4.61%	1.62%	20.12%	78.26%	1.95%	41.99%	56.07%	65.28%	28.68%	6.04%	39.26%	41.73%	19.01%	20.83%	73.13%	6.04%
合計	4,322	3,744	484	94	79	1,450	2,793	85	2,150	2,087	3,037	1,069	216	2,115	1,718	489	1,091	3,057	174
	割合	86.63%	11.20%	2.17%	1.83%	33.55%	64.62%	1.97%	49.75%	48.29%	70.27%	24.73%	5.00%	48.94%	39.75%	11.31%	25.24%	70.73%	4.03%

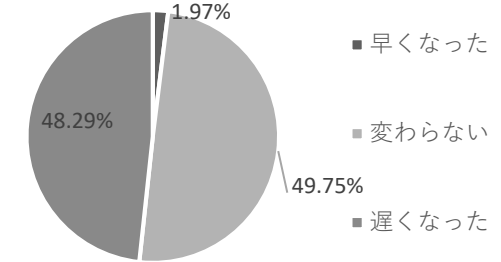
【問1】朝食を毎日食べていますか。



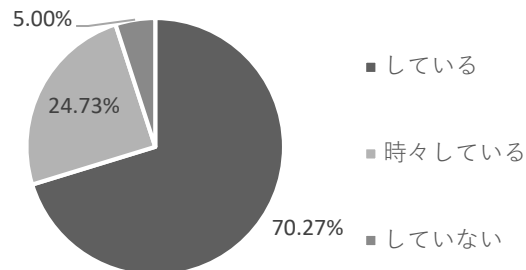
【問2】学校が休みになる前と比べ朝起きる時刻はどうになりましたか。



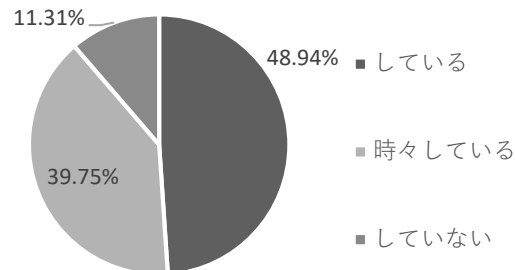
【問3】学校が休みになる前と比べ夜寝る時刻はどうになりましたか。



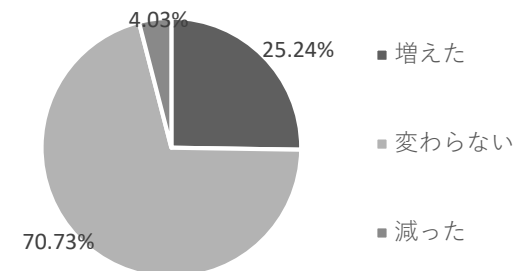
【問4】毎日勉強していますか。



【問5】毎日運動していますか。



【問6】学校が休みになってイライラすることが増えましたか。



臨床心理士による結果分析と今後の対応

- この6つの項目は、全て連動している。夜遅く、朝起きられないから、朝食も食べることができない。体がだるく、やる気がでないので、学習も運動もしない。そのことで、ストレスが蓄積される。
- 生活習慣（特に睡眠）と不登校は密接な関係がある。学校再開後の不登校の出現を危惧する。
- 外出しないこと、不安感を持ちながら外出すること等、落ち着かない気持ちがストレスを生み出している。
- 家族生活スタイルの変化等、大人の不安感やストレスが、子どものストレスを生み出している。
- 他者とながることが苦手な子どもたちは、休校で長期間にわたり友達や先生とながらない環境で過ごすことにより、学校再開後、一層集団生活に適応しにくくなる。
- 小学生の4人に1人、中学生の5人に1人がストレスが増えたと回答している。そのことで、暴力的になったり、家族関係が損なわれたりという行動がみられる場合は、直ちに支援が必要となる。
- 無回答の家庭や子どもたちの様子について、留意する必要がある。
- 登校日は、たとえ週1日であっても、これまでの生活様式をリセットすることになり、また、その日に合わせて生活のリズムを整えることになるので、意義は大きい。
- 登校日には、カウンセラーと教職員が協力して対応することが必要である。まずは、学校でストレスチェックを行い、分析やカウンセリングをカウンセラーが、指導を教職員が行う体制をつくる。
- 子ども支援センターは、保護者向けにリーフレットを配布する等、より一層相談を受けやすい体制をつくる。